61.

612.27.0397

登錄第 398 號

# 低氣壓下脂肪代謝ニ及ポス Vitamin B ノ 作用ニ就テ

附耐高力ニ及ボスVitamin Bノ作用

岡山醫科大學生理學教室(主任生昭教授)

## 大 西 雅 一

#### 緒 言

低氣壓下=動物ヲ長時間飼養スル時へ各種臓器=脂肪沈着ヲ見ル事へ、Lewinsteinヲ始メトシ、Schrötter、Rosin、Loewy等多数ノ人々=ヨリ實驗的=證明サレタ、著者モ亦低氣壓ノ各種臓器=於ケル脂肪代謝=及ボス影響ヲ觀察シ、コノ脂肪沈着が炭水化物代謝ト大ナル關係ヲ有スルモノトをヘタガ、ココ=再ビ炭水化物代謝ト密接ナル關係ヲ有スル Vitamin B1 及ビ B2 ヲ用ヒ、之等Vitaminガ低氣壓下脂肪代謝=如何ナル作用ヲ有スルヤヲ觀察セントシ、以下ノ如キ質驗ヲ施行シ其ノ結果=ツキ報告スル

#### 實驗方法

實驗用動物=ハ健康ナル、15g前後ノ「マウス」 フ用ヒ、低壓裝置へ、低壓壜=ヨリコノ中=動物 フ24時間入レ、氣壓ハ380mmHgトシタ、脂肪定 量ニハ,隈川,須藤氏法ニョツテ動物ラ壜ョ**リ出** スヤ石や断首シ各種臓器ノ脂肪量フ測定シタ。

#### Vitamin B<sub>i</sub> ニョル實驗

Vitamin B<sub>1</sub> (V.B<sub>1</sub>)トシテ、「强力メタボリン」
(武田) 7使用シ、コレフ1日3回、1回1mg宛7皮下
ニ注射シ、氣壓380mmHg下=24時間置き各種職
器脂肪量 7測定シタ・其ノ成績ハ第1表 =示ス如
ク、平壓=於テハ V.B<sub>1</sub> 7注射セルモノト、注射
セザルモノトノ間=蓍シキ變化ヲ認メズ・然ルエ
半氣壓=長時間曝露セルモノニ於テハ V.B<sub>1</sub> 7注
射セルモノニアリテモ各臓器ノ脂肪量 7増加ス・
殊ニ腎臓及ビ肝臓=於テ蓍シ・但シ旣=報告セル
如ク顯微鏡染色標本=於テハ半氣壓下ノ臓器ノ脂
肪沈着ハ實=蓍シキモノニシテ、化學的=モコレ
ア證明スル事が出來タガ V.B<sub>1</sub> 注射ヲ施セルモノ
ニハ其ノ程度ハルカ=微弱デアル・

第1表 V.B<sub>1</sub> ヲ注射セル場合ノ低氣壓下各種臓器脂肪量 (%)

	760 mmHg							380 mm $\mathbf{H}\mathbf{g}$								
	注射セザルモノ			V. B1 ラ注射セルモノ			注射セザルモノ				V.B <sub>1</sub> ヲ注射セルモノ					
_	筋	¹Ç.	肾	(乾)	筋	14	肾	(乾)	筋	ىن،	腎	(乾) 肝	筋	ιĊ	肾	(乾)肝
	3.2 2.1	2.5 2.9	4.5 3.9		3.3	2.4 2.8	4.3 4.0	9.5 7.0	3.0 3.5	3.0 3.2	6.6 5.2	13.5 10.5	3.4 3.6	2.1 2.3	4.6 4.7	9.8 10.3
	3.5 3.0 2.8	1.5 2.1 2.3	4.8 3.5 3.4	9.5 10.0	2.0 3.1 2.5	2.0 2.3 2.1	4.5 4.3 3.8	8.9 9.5 9.8	3.1 4.5 3.9	2.8 3.4 2.2	5.0 4.8 5.3	16.8 15.1 12.1	3.0 3.0	1.8 2.4 2.2	3.9 5.0 3.5	11.1 12.5 9.1
平、均	2.9	2.3	4.0	8.7	2.8	2.3	4.2	8.9	3.8	2.9	5.4	13.9	3.0	2.4	4.3	10.6

### Vitamin B<sub>2</sub> ニヨル實驗

Vitamin B<sub>2</sub>トシテ「カタフラビン」(第一製薬)
フ用ヒタ、「マウヘ」=「カタフラビン」1.5cc 71日
3回=分チテ皮下=注射卸チ Vitamin B<sub>2</sub> 0.75mg
フ1日3回=分チテ注射シ、24時間380mmHg下=。 置き前實驗同樣臟器中脂肪量フ測定シタ、實驗成 額第2表 =示セル如ク、氣壓760mmHg下=於テヘ V.B<sub>2</sub> へ、機器脂肪量=何等變化フ及ボサナイト 四メル、俳シナガラ半氣壓即チ380mmHg下二於テハ V.B2注射ニョリ、臓器特=肝臓、腎臓等ノ脂肪量へ著明ニ増加スな事ガ知ラレル、俳シナガラ筋肉心臓等ニアリテへ著明ナ變化ヲ認メ得ナイ、此成銀ラ V.B1 注射ノ成績ニ比較スルニ腎臓ニ於テ平均1.8%、肝臓ニ於テ平均9.2%ノ増加ニ菌ル、但シ此相違ハ V.B1 ト V.B2トノ有效單位ノ相違ニ由來スルモノヤモ知レナイ、

第2表 V.B<sub>2</sub> ヲ注射セル場合ノ低氣壓下各種臟器脂肪量 (%)

	760 mmHg							330 mmHg								
	注射セザルモノ			V. B. ラ注射セルモノ			注射セザルモノ				V. B <sub>2</sub> ラ注射セルモノ					
	筋	心	肾	(乾) 肝	筋	ıù.	幣	(乾)	筋	心	腎	(乾)	筋	ıĽ	腎	(乾
	2.9 3.5 3.0 2.1 3.5	2.5 2.9 1.5 2.1 2.3	4.5 3.9 4.8 3.5 3.4	8.3 7.5 8.0 9.5 10.0	3.0 3.4 3.9 3.8 3.6	2.1 2.9 2.5 2.0 1.6	4.5 4.0 4.9 4.6 3.5	9.0 9.5 8.9 8.8 9.9	3.0 3.5 3.1 4.5 3.9	3.0 3.2 2.8 3.4 2.2	6.6 5.2 5.0 4.8 5.3	13.5 10.5 16.8 15.1 12.1	3.0 3.1 3.6 3.5 3.4	2.6 2.1 3.0 1.0 2.0	6.3 6.7 6.0 5.9 5.8	19.5 20.6 18.6 21.6 19.1
平 均	3.0	2.3	4.0	8.7	3.5	2.2	4.2	9.2	3.8	2.9	5.4	13.9	3.3	2.1	6.1	19.8

## 耐高力ニ及ポス作用

Lucas, 馬淵等ハ Vitamin C ハ動物ノ耐高力ラ 増大セシムル事ラ實驗報告シ、著者モ之等學者ノ 設ヲ追試セル=同様ノ結果 ラ 得 タ. ココニ再ピ Vitamin B<sub>1</sub> 及ピ Vitamin B<sub>2</sub> ラ用ヒ, 之等 Vitamin ガ動物ノ耐高力ニ 如何ナル 影響ラ及ボスヤ ラ知ラントシ、以下ノ資験ラ施行シ其ノ結果ニツ キ建ベル、 實驗動物ニハ「マウス」 ラ用ヒ、 Vitaminハ前貨驗同様「メタボリン」,「カタフラビン」 フ使用ンタ、低壓裝置へ低壓爆フ用ヒ、温度フー 定=保持スルタメ裝置フ水道水中=浸シタ、先火 紙壓270mmHg迄 約3分間 フ要シテ氣壓フ低下セ シメ、以後5mmHgフ低下セシムル=約20秒フ要 スル様=シタ、動物ニハ Vitamin B<sub>1</sub> 0.5mg, Vitamin B<sub>2</sub> 0.5mg フ皮下=注射シ、注射後約20分フ 經過シテ低壓裝置=入レ實驗フ開始シタ、カクシ

第3表 Vitamin Bト耐高力トノ關係

	注射セヤ	アル場合	V. B <sub>i</sub> ラ注	射セル場合	注射セヤ	ドル場合	V. B <sub>2</sub> ヲ注射セル場合		
	死亡セル 氣壓 (mmHg)	死亡セル O <sub>2</sub> 蔵 (mmHg)	死亡セル 気 <b>感</b> (mmHg)	死亡セル O <sub>2</sub> 歴 (mmHg)	死亡セル 氣 <b>感</b> (mmHg)	死亡セル O <sub>2</sub> 医 (mmHg)	死亡セル 紙壓 (mmHg)	死亡セル O <sub>2</sub> 歴 (mmHg)	
	175	36.8	140	29.4	135	28.4	130	27.3	
	185	38.9	135	28.4	130	27.3	130	27.3	
	150	31.5	130	28.3	150	31,5	140	29.4	
	170	36.7	120	25.2	150	31.5	145	- 30.5	
	125	26.3	120	25.2	135	28.4	135	28.4	
	130	27.3	115	24.2	145	30.5	130	27.3	
	160	33 <b>.6</b>	130	27.3	150.	31.5	145	30.5	
	150	31.5	135	28.4	165	36.7	155	32.6	
	150	31.5	130	27.3	180	37.8	160	33.6	
	165	34.1	135	28.4	150	31.5	140	29.4	
平 均	156	32.7	127	26.6	149	31.3	141	29.6	

テ得タル成績へ、第8表ニ示セル如ク Vitamin B **ラ注射セザルモノハ、156mm 水銀柱ニ於テ 死亡** スルモ, V.B<sub>|</sub> ヲ注射セルモノニアリテハ平均127 mm 水銀柱壓迄耐ユルヲ得タ、空氣ノ酸素分壓ニ 換算スレベ, 156mm ノ氣壓=テハ[32.7mmHg= シテ, 127mm/氣壓=テヘ 26.5mmHg ノ酸素分 壓=相當スル、V.B2 ノ注射=テへ149mm=耐ユ ルモノヲ141mm=迄耐高性ヲ高メタ. 卽チ V.B<sub>1</sub> ニアリテハ 氣壓=於テ25mmHgノ差ヲ生スルモ V.B<sub>2</sub> ニアリテハ 僅=8mmHgノ差ヲ 生ズルニ過 ギズ、但シ此相違へ前節ニモ述ペタル如ク「メタ ボリン」ト「カタフラビン」トノ單位ノ相違モアル **ダラウシ,其ノ含有單位ヲ等シクスルトスルモ作** 用機轉す異ニスルモノノ作用ヲ比較スペキニアラ ズト考へラレル、兎ニ角同量ノ「メタボリン」ト「カ タフラピン」トニテハ「メタボリン」ニョル耐高性 ハ、「カタフラビン」ヨリモ蓍明ナリト云ハナケレ ペナラナイ.

#### 總括並二考按

以上實驗成績ヲ總括シ,之ニ對シュ,3考按ヲ加ヘル事トスル、低氣壓下ニ長時間飼養セル動物ノ 臓器=脂肪ノ沈着スル事ハ既=古クヨリ知ラレタ 所デアリ,著者モ亦實驗的ニ之ヲ確カメル事が出 來タ、而シテ「メタボリン」ヲ注射セル動物ニアリ テハ,コノ脂肪沈着が著明=【抑制サレルガ,「カ タフラビン」ノ注射ニヨリテハ其ノ效果ヲ認メル 事が出來ナイ、更=「メタボリン」ハ動物ノ耐高力 ヲ増加セシメ「カタフラビン」モ V.B<sub>1</sub> ト同様ノ傾 向ヲ有スルョ前者=比シ其ノ效力小デアル・

先ア V.B<sub>1</sub>ト脂肪代謝トノ關係ニツキ考へルニ、V.B<sub>1</sub> へ焦性無葡酸ニ 作用スル 必須因子デアルタメ、焦性葡萄酸カラ脂肪ラ合成スルモノト考へラレル、Whiple 及ピ Church へ V.B<sub>1</sub> 缺乏動物ニV.B<sub>1</sub> ヲ奥ヘルト體重ガ増加シ、コレヘ脂肪ノ蓄積ノタメデアリ、其ノ脂肪へ明カニ炭水化物カラ作ラレル事ラ示シタ、更ニ V.B<sub>1</sub> ヲ奥ヘタ際呼吸

率ガ著シク高マルノハ脂肪ノ合成サレルタメデア ルトシ. McHenry モ之ニ同意シタ、從ツテ V.Bi 缺乏ノ際焦性葡萄酸ガ 蓄積シ V.B<sub>1</sub> ヲ與ヘタル時 へ焦性葡萄酸カラ脂肪ガ合成サレル事ニナル. 焦 性葡萄酸カラ脂肪ガ合成サレルト云フ考へへ組織 中デ「ヒドロオキシ酪酸」が焦性葡萄酸カラ作ラレ ルト云フ Krebs 及ビ Johnson ノ瞪明 ニョツテ モ支持サレル、低氣壓下ニ於テハ血中ニ焦性葡萄 酸ガ増加スル事へ、今村ニョリ證明サレタ所デア リ、カクノ如キ場合= Vitamin B1 ノ注射へ明カ ニ脂肪増加ヲ來スペキデアルガ、著者ノ實驗ニ於 テハ却ツテ脂肪増加ニ對シテ抑制的作用ヲ見ル事 ガ出來タ. 低氣壓下ニ於ケル脂肪蓄積へ脂肪ノ燃 **燒不全ト含水炭素ノ脂肪ヘノ轉化が主タル原因タ** ル事へ著者ノ指適シタ所デアル、而シテ脂肪及ビ 含水炭素ノ處理ニ重大ナル役割タナス肝臓へ、低 **壓下ニ於テハ其ノ機能ヲ低下セシメルト云ハレ** ル、即チ田中及ビ小林へ低氣腰下ニ於テへ果糖代 謝試驗ニョリ肝臓機能低下ヲ來ス事ヲ指滴シ、田 中へ低氣配下=於ケル血液安門ノ増加へ、其ノ原 因ノ一部ガ肝臓機能ノ減退ニョル尿素合成作用ノ 障碍ナリト云ヒ、田中、本間へ低氣壓下ニ於テハ 肝臓機能ノ低下ニョリ色素排泄障碍 ヲ生ズト云 フ. 其ノ他、Abderhalden 及ビ其ノ共同研究者、 田中及ビ共同研究者等へ低氣壓下=於テハ血糖上 昇スル事實ヲ報告シ、肝臓機能障碍ナリト云フ. カクノ如キ低氣壓下ニ於テ肝臟機能ガー様ニ低下 スルナラベ、糖類ノ酸化不完全トナリ脂肪蓄積ノ 原因タリ得ルト推測セラレル. Steigerwaldt = ヨ レベ V.B<sub>I</sub> へ肝細胞ノ糖分解ヲ 亢進セシメルト云 ヒ, 而モコノ糖分解ハ非費酸素的分解ヨリ費酸素 分解=於テ蓍明デアル. 又焦性葡萄糖酸ヲ乳酸= 轉化スルト云フ. 又 Gottlebe, Costa 及ビ Masuelli 等ニョリ V.B! ガ 糖代謝ヲ調節スル事實ヲ 指適サレテ居ル. 恐ラク V.B1 ガ低氣壓下ニ於ケ ル脂肪蓄積ヲ抑制スルハ、上述ノ如ク酸素缺乏ニ ヨル影響ヲ受ケ易キ費酸素的糖分解ヲ盛ントナラ

シメ脂肪ニ轉化スル裏ナキニョルモノデアラウ、 V.B2 ハ燐酸ト「エステル」フ作り、更ニ蛋白ト結合 シテ黄色酵素トナリ所謂脱水素酵素ノ力ヲ經テ被 酸化物質中ノ水素ヲ奪取スル、コノタメ自身ハ還 元サレテ Leukobase トナリ, 後, 酸素ニョッテ 酸化サレ再ビ黄色酵素トナル、而シテ低駅下=炒 テハ酸素ニヨル脱水酵素ノ酸化の困難トナル事へ **敬想シ得ル所デアリ從ツテ Leukobase** ニョリ黄 色酵素ノ形成困難トナリ黃色酵素トシテノ水素紙 取機能ヲ夫フベキデアル. V.B2 へ糖代謝 ニ作用 スルト述ペル人モアルガ,其ノ作用へ軽度デア リ, 必要量以上ノ V.B2 ノ投與ハ無效ナリト云ハ レル. 而シテ V.B2 ハ其ノ實験式ヨリ 明カナ如ク 9 / 位置ニ糖ノ側鎖 ヲ有シテ居り、構造式ヲ見ル ト糖類「プリン」、「アヂン色素」及ビ「ペンゼン」誘 導體ト關係アル事へ明カデアル、低氣壓下ニ於テ V.B2 へ分解シ 其ノ中ノ糖類ニ 關係セル部分が脂 肪=變ズルニアラザルヤト考ヘラレルガ踏ホコノ 問題ニ鼠シテへ詳細ナ研究ヲ要スルモノト考へラ レル、V.B1 ノ注射ニョリ 耐高力ガ 増加スル事へ 旣ニ實驗ニョッテ明カトナツタガ V.B1 ハ組織呼 吸ヲ盛トシ,酸素攝取ヲ大トスルト云ハレテ居

文

1) Lewinstein, Pflügers. Arch. 65, 1896, 278.
2) Schrötter, Wien. Med. Wschr. 1902.
3) Rosin, Beit. Path. anat. u. allg. Path. 78, 153, 1926.
4) Loewy, Pflügers. Arco. 207, 1925.
5) Lircas, Nature Vol. 148, 84, 1941.
6) 馬淵, 日本生理學誌 6卷 150.
7) Whiple Church, J. Biol. Chem. 103, 353.
8) Mc Henry, J, Physiol. 89, 287.
9) Krebs, Johnson, Biochem. J. 31, 645.

ル、低氣壓下 =於テモ V.B<sub>1</sub> /注射=ヨリ酸素利用力大トナリ組織呼吸モ熾烈トナリ、其ノタメ耐高力増大スルモノト 考へル、又 V.B<sub>2</sub> 注射=ヨリテハ耐高力増大スルモ其ノ程度小ナルへ Leukobase ヨリ再ピ酸化=ヨリ 黄色酵素トナル過程=於テ障碍ヲ生ジ其ノ作用ヲ失フタメト考へラレル.

#### 結 論

低氣壓下脂肪代謝並ニ耐高力ニ及ボス V.B ノ作用ヲ觀祭スルタメ「マウス」ヲ用ヒ旣述ノ如キ實驗ヲナシ灰ノ結論ヲ得ダ.

- N.B<sub>1</sub> ハ低氣壓=ヨル 脂肪蓄積ヲ抑制シ 耐 高力ヲ増大スル.
- V.B<sub>2</sub> ハ低氣壓下=於テ 脂肪蓄機 ラ 抑制スル事少ク, 耐高力ハ増大スルモ V.B<sub>1</sub> = 比シ其ノ效力小デアル。

稿ヲ終ルニ臨ミ、終始御懇篤ナル御指導ト御校関ヲ賜ハリシ恩師生沼教授ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ捧ゲ、併セラ實驗中種々ノ御助言御助力ヲ賜ハツタ林助教授、小坂滕師ニ深謝ス.

#### 俎

10) 今村,滿洲醫學會誌 33卷 昭15年. 11)

Abderhalden, Pirügers Arch. 216, 1927, 363.

12) 田中,海軍醫會誌 昭10年. 13) Steigerwaldt,

Klin. Wschr. 1939, 18, 431. 14) Gottlebe, Z.

Klin. Med. 1938, 133, 739, 15) Costa, Masuelli,

Zit. Brit. Chem & Physiol. Abet. 1939, 286.

(特揭 昭和18年5月19]日受稿)